

# 大使館情報

2020年11月

## 【目次】

### 1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢等
- (2) 経済政策等
- (3) 中銀の金融政策等
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

### 2. ブラジル政治情勢（10月の出来事）

#### 【内政】

- (1) 最高裁判所判事の任命
- (2) 首都第一コマンド幹部の釈放
- (3) 「緑のブラジル作戦」の延長

#### 【外交】

- (1) ペルーとの AEO 相互承認の署名
- (2) 伯韓首脳テレビ会談及びボルソナーロ大統領とムハンマド・サウジアラビア皇太子とのテレビ会談
- (3) アラウージョ外務大臣のテレビ会談出席
- (4) 伯パラグアイ国境貿易の再開に関する文書の署名
- (5) オブライエン米国家安全保障担当大統領補佐官一行の訪問
- (6) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う諸外国からの入国制限

### 3. トピックス

- (1) 新型コロナウイルス関連

### 4. 大使館からのお知らせ

- (1) 文化イベント
- (2) 外務省 海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

## 1. ブラジル・マクロ経済情勢

### (1) 経済情勢等 (10月発表の経済指標)

(ア) 中銀が週次で発表しているエコノミスト等への調査(フォーカス調査)によれば、10月30日時点で、GDP成長率予測については、2020年は▲4.81%で前週から変わらず、2021年は3.34%で前週(3.42%)から0.08%下落。インフレ率については、2020年は3.02%で前週2.99%から0.03%増加、2021年は3.11%で前週から0.01%下落。

(イ) 1日、地理統計院(IBGE)は2020年第2四半期(4~6月)の実質GDP成長率を前期比▲9.7%、前年同期比▲11.4%と発表した(第1四半期は前期比▲2.5%、前年同期比▲0.3%)。業種別では工業が▲12.7%、サービス業が▲11.2%と生産活動停滞の影響を強く受け、個人消費(▲13.5%)及び輸入(▲14.9%)も下落した。輸出は中国の需要増、リアル下落及び商品価格の上昇により前年同期比+0.5%と上昇した。

(ウ) 8月の鉱工業生産指数(季節調整済み)は前月比+3.2%と生産の回復が継続した。9月以降は緊急支援金の減額に伴う生産への影響が懸念されている。

(エ) 8月の小売売上高は、前年同月比+6.1%と4ヶ月連続で前年を上回った。観光や外食等の支出は依然として低迷しているが、自動車販売はコロナ感染拡大前の水準を12.9%上回った。

(オ) 9月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前月比+0.64%、前年同月比+3.14%で9月単月では食品価格の上昇を主因に2003年以降最も高い上昇率を記録した。

(カ) 全国の失業率(6月~8月の移動平均)は14.4%となり、前月の13.8%から0.6%上昇、2012年以来の高水準となった。雇用者数は8,202万人で、過去最低記録を更新した。

(キ) 9月単月の貿易収支は61.64億ドルの黒字で前月比黒字幅は縮小したものの、前年同月比+62.1%と前年を上回る貿易黒字を維持している。1~9月累計では424.45億ドル(前年同月比+18.6%)となり、国内需要減少に伴う輸入減で黒字幅が拡大している。

### (2) 経済政策等

(ア) 1日、ボルソナーロ大統領はパンデミック対応の緊急援助支給について、支給額を月額300リアルに減額して本年12月まで4ヶ月延長することを発表した。経済省によると同4~8月の緊急援助によって6,700万人が給付を受け、約900億リアルの追加財政支出が生じている。

(イ) 19日、伯外務省と経済省は、米国との二国間貿易経済協力協定(ATEC)の議定書に署名した。本議定書は、貿易円滑化及び税関協力、良き規制慣行、腐敗防止の3つの付属書からなり、二国間の貿易と投資を促進する事を目的とした貿易パッケージ。

(ウ) 21日、在伯米国大使館は、オブライエン米国家安全保障担当大統領補佐官が2日間の訪伯において、伯政府高官及び民間経営者との会合を行い、幅広い二国間問題について話し合ったと発表。

(エ) 22日、伯中銀は11月から開始する即時支払システム(Pix)のため、金融機関に対する登録と必要なテストのプロセスを10月16日に終了したと発表した。銀行、フィンテック、決済機関を含めた762の金融機関は、11月16日より、中銀が定義する要件に従って安全にPixを利用することが可能となる。

(オ) 28日、伯経済省は、パンデミックの影響で、2020年上半期の対伯直接投資(FDI)の金額が主要国中3番目(イタリアは▲74%、米国は▲61%に次ぐ)の下落率であったと発表。伯の下

落率（▲48%）は新興国の1～6月平均の下落率▲16%、ラテンアメリカの▲25%を下回っていた。

### **（3）金融政策**

10月28日、金融政策委員会（Copom）は、政策金利（Selic）を2.00%に据え置くことを全会一致で決定した。政策金利を維持するのは2会合連続、次回会合は12月7日及び8日の予定。

### **（4）為替市場**

10月の為替レートは、5.23～5.68 レアル/ドル台で推移。月の前半は、米国の追加経済対策の合意期待と、税制改革進展期待に伴いレアル高に振れる局面があったが、財政懸念や政権の財政運営に対する不安が重しとなり、10月下旬まで5.60 レアルを挟む展開だった。しかし、欧州での新型コロナウイルス再拡大に伴うロックダウン等が景気回復を遅らせるとの懸念が拡大し、一時5.79 レアル/ドルまでレアル安が進行した。

### **（5）株式市場**

10月のブラジルの株式相場（Ibovespa）は、93,510～102,168 ポイントで推移。良好な経済指標に加えて、改革進展への期待から102,000 ポイントを回復。しかし、石油・鉄鉱石需要後退懸念の拡大に伴う商品価格の下落や、欧州の新型コロナウイルス感染拡大による景気先行き懸念が拡大、更に、来年以降の所得支援策を巡り財政懸念が拡大して、93,000 ポイント台まで下落した。